

1. 評価結果概要表

作成日 平成19年 10月 1日

【評価実施概要】

事業所番号	4271402150
法人名	有限会社 高原
事業所名	グループホーム あすなる
所在地	長崎県雲仙市吾妻町馬場名277番地 (電話) 0957 - 38 - 6728

評価機関名	特定非営利活動法人 ローカルネット日本福祉医療評価支援機構		
所在地	長崎県島原市高島2丁目7217島原商工会議所1階		
訪問調査日	平成19年9月20日	評価確定日	平成19年10月19日

【情報提供票より】(H19年 8 月 30 日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 16 年 11 月 1 日
ユニット数	2 ユニット 利用定員数計 18 人
職員数	18 人 常勤 16 人, 非常勤 2人, 常勤換算 11 人

(2) 建物概要

建物構造	木造 1 階建ての 1 階 ~ 1 階部分
------	--------------------------

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	15,000 円	その他の経費(月額)	9,000 円	
敷金	有(円) (無)			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円) (無)	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり	950 円		

(4) 利用者の概要(8月30日現在)

利用者人数	16 名	男性	3 名	女性	13 名
要介護1	8 名	要介護2	2 名		
要介護3	5 名	要介護4	0 名		
要介護5	0 名	要支援2	1 名		
年齢	平均 82.9 歳	最低	73 歳	最高	93 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療法人 愛野記念病院	医療法人 安藤病院
---------	-------------	-----------

田園風景の中に建設され、少し離れた場所には市役所や公共施設や病院があり、利便性に優れている。ホームの中にグランドピアノを置いた広いホールがあり、ミニコンサートや週1回の音楽療法を取り入れ、入居者は明るい表情で自分のできる事を率先してされており、活動的な面から成果が窺える。入居者と職員と一緒に作業をされ、「ありがとう」の言葉を交わしながら仲良く生活されている。施設長は四つの経営方針をたて、「あすなる」の木のごとく、外部の様々な情報や意見を取り入れ、より良いホームへと熱意を持って前進され、取組まれている。

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の評価を真摯に受け止め、改善計画シートを作成し、職員と一丸と成り改善に向けた内容を明確にし、評価を行い、改善状況を把握され計画的に実施されている。今回の調査時もメモを取られ積極的な取り組みが窺えた。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	職員全員で自己評価を行い、日々の取り組みの分析をすることで、質の向上に向けて、課題抽出を行い、知り得たい情報や、今後どのように支援していくか、方向性を見出すために活用されている。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	市町村・民生委員・家族の代表・施設長・職員が参加し、2ヶ月に1回開催されている。活動内容・行事報告・入居者の状態・要望・助言・報告・評価を織り込み、参加者がそれぞれ意見を述べ、内容の充実した会議が開催されている。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	重要事項に苦情処理体制を明確にし、玄関の面会簿の横に意見箱の設置や、面会時や家族懇談会時に意見や要望をお願いされているが、家族からの申し出はない。預けているがゆえに言えない家族の心情を考慮し、些細な事も引き出す取り組みとして、あすなる通信に「気軽に何時でも意見・苦情・不安を申し出下さい」との記述や、家族アンケート(返信方法を工夫)等様々な取り組みを期待したい。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
重点項目	自治会や老人会の加入はないが、地域の中に溶け込み、ホームでできた野菜のおすそ分けや、あすなる祭りの参加のお願い、庭の入り口にベンチを置き、触れ合いの場所の提供、散歩時の挨拶・入居者の徘徊時の声掛けやホームに知らせてもらうなど、自然体での交流がされている。

2. 評価結果 (詳細)

( 部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
		地域密着型サービスとしての理念			
1	1	地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	入居者が住み慣れた環境の中で「笑顔、挨拶、会話」で過ごして頂く事を前提に理念として掲げ、共に支えながら明るく生活をされている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	開設時、職員が全員でどの様に過ごして頂きたいか、案を出し合い「穏やかに、生き生きと、自分らしく」を理念として掲げ、月1回のミーティング時に唱和し再確認をしながら、日々の介護に取り組まれている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会や老人会の加入はないが、地域の中に溶け込み、ホームで出来た野菜のおすそ分けをしたり、庭の入り口にベンチを置き、触合いの場所を提供したり、散歩時の挨拶等自然体での交流がされている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価を真摯に受け止め、評価後は改善計画シートを作成し、可能な事から改善されている。又、自己評価は職員全員で取り組み、評価を質の向上に向けての一環として、課題抽出に活用されている。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	市町村・民生委員・家族の代表・施設長・職員が参加し、2ヶ月ごとに開催され、活動内容・行事報告・入居者の状態・要望・助言・報告・評価を織り込み、参加者がそれぞれ意見を述べ、内容の充実した会議が開催されている。		

グループホーム あすなる

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	雲仙市役所の近隣に建てられており、パンフレットを配置し、吾妻地域審議会(雲仙市の運営で各団体の代表が参加し市長と意見交換を実施する)に参加しており、密接な関係作りができています。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月「あすなる通信」を発行し、入居者の家族に配布している。又、受診や必要時は電話により連絡を密に行っている。金銭管理は預り証を発行し、出納帳により毎月の利用料と一緒に請求書を作成し、送付している。(領収書はホームで綴り、家族の申し出時開示している)		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関の面会者名簿の横に意見箱を設置し、面会時や家族会の時に意見や要望をお願いされているが、家族からの申し出はない。気軽に聞き出す取り組みが不足している。		預けているがゆえに言えない家族の心情を考慮し、些細な事も引き出す取り組みとして、便りに「気軽に何時でも意見・不満・苦情を申し出下さい」との記述や、家族アンケート(送付方法を工夫)等様々な試みを期待したい。
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	ユニット間で職員の異動はなく、職員と入居者が仲良く、馴染みの関係である。離職は少なく、新人の職員は通信で入居者や家族に紹介している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	受講可能な研修を受講し、資料や報告書を職員間に閲覧している。毎月スタッフミーティングは各ユニットで実施し、入居者を共有する取り組みは無く、様々な方面の内部研修の実施は少ない。		非常時を考慮して、両ユニットの入居者の状況を全職員で共有する(例、各ユニットの管理者がスタッフミーティングに参加し、情報の交換を実施する等)取り組みを期待します。又、職員のスキルアップに繋がる内部研修(プライバシー保護・虐待防止・福祉に関する新情報等々)の実施が望まれる。
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	施設長は他ホームと情報交換をする事はあるが、グループホーム連絡協議会に加入されているが、業務多忙や自主性を重んじ、職員の参加は少なく、交流とまでは至っていない。		グループホーム連絡協議会に参加されたり、興味があるホームに見学に行かれ、ネットワークづくりや情報を収集することでサービスの質の向上へ繋がれることを期待したい。

グループホーム あすなる

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>入居希望の相談が発生した時、ホームの空室状況を考慮して、施設長と管理者が本人と家族に面談や、施設内見学又は自宅訪問を実施し、納得されてからの入所に繋げている。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>入居者は人生の先輩であり、様々な生活と経験を経てこられた事から学ぶ事が多く(畑作業、裁縫、慣わし、ことわざ等)、「ありがとう」の言葉を互いに掛け合い、支えあいながら一緒に生活されている。</p>		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>バックグラウンドとして生い立ちからの情報を収集し、生活歴を把握する事で、行きつけの美容室や仲間の集まりに参加する等、入居者の希望を取り入れた支援をされている。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>入居者と家族の意向や要望を収集し、課題を抽出することで、入居者主体の暮らしに反映した詳細なサービス内容を介護計画に取り込み、職員間で共有を図っている。又、家族の同意が記名捺印により取られている。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>毎月のミーティングで入居者一人ひとりの介護計画の実施状況と、状態の変化や問題点を話し合い評価を実施し、ノートに記録され計画の見直しをし、次の計画へ取り入れている。</p>		

グループホーム あすなる

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	毎月グランドピアノ(ピアノ)の先生による演奏とプロの音楽家)や手話を取り入れた歌による音楽療法を取り入れたり、必要に応じて福祉用具の使用や、行きつけの美容室に同行等されている。更に満床を目指した事業展開や、今後の取り組みを思考中である。		経営の安定化を図る意味で、満床の必要性を考慮され、医療連携や、間もなく開設3周年を迎えられる事もあり、ディサービスやショートステイを取り入れた事業展開が期待される。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者の掛かりつけ医や協力医療機関の確保があり、通院や必要時は往診を取られている。気軽に相談や指示が仰げる関係作りができており、適切な医療支援ができています。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化に伴う終末期に関しては現在取り組まれていない。今後に向けて、医療連携体制を思案中である。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員同士での会話は極力、イニシャルで入居者を呼び、記録物の保管にも配慮されている。リビングを中心に居室があり、全員が集まる食卓テーブルから居室が直接見えるようになっている。しかし、時々入居者がドアを閉められることもあり、配慮が不足している。又、プライバシーに関する研修の実施がない。		居室が他の人から直接見える事に関しては、入居者や家族に相談され、プライバシーに配慮した取り組みをお願いしたい。又、ケア会議等を活用し研修(プライバシーとは、対応方法等)を実施される事に期待したい。
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	生活にルールはなく、入居者のペースを尊重し、したいことをされ楽しまれている。行事や外出時は化粧をされたり、お洒落をされており、職員は入居者を主人公としたケアに務めている。		

グループホーム あすなる

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者は食事の準備から後片付けまで職員と一緒にされており、全員で食卓を囲み楽しく食べられている。又、家庭菜園の野菜が食卓に上がる事がある。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴前にバイタルチェックを行い、拒否者には少し時間を置いたり等、工夫しながら週3回支援されている。入浴の順番は希望を取り入れ、仲間と一緒に入られる人もいる。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	入居者は活発であり、洗濯物の手伝い・炊事場で洗い物をする・食事の準備・食器を拭く・家庭菜園をする等々(作業後は職員が「有難うございます」と言う)表情が生き生きとしており、張り合いや喜びのある生活をされている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	ホームは田園風景の中に在り、近くには公共施設があり、散歩や立ち寄る等、利用されている。日光浴の大切さを理解され、可能な限り外出の機会を作り、外食(ソーマン流し)やドライブ等、入居者の希望を取り入れながら支援されている。		
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関にチャイムの設置をし、職員の見配りで日中施錠されることはなく、入居者とコミュニケーションを取る事で、落ち着かれ勝手に外出される事はない。万が一、外出された時は地域の人の声掛けやホームに知らせる頂き、自然体で支援されている。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	昼夜を想定し年2回消防署立会いの消火・避難訓練の実施があり、消防計画書や自動通報装置で連絡が取れている。様々な災害を想定(地震や水害等)した訓練や、備蓄(飲料水・当座の食料等)にまで至っていない。		起きうるであろう様々な災害、特に地震災害を想定した訓練を実施され、備蓄状況に関する見直し(飲料水・食料等)を実施され、入居者の状況に応じた必需品を今一度チェックされる事に期待したい。

グループホーム あすなる

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分量は記録をとり、栄養バランスや嚥下・咀嚼に配慮し、体重の増減やコレステロールに注意を払いながら、食事が提供されている。又、食事制限がある人は、病院の管理栄養士の指導を受けている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	広いホールを有し、リビングや廊下等は明るく、陽射しは日よけで和らげ直射日光を避けている。自然に囲まれ騒音はない。花壇やホームの周りの農地から季節を感じる事ができ、特別な飾りはなく、テーブルセットやソファを配置し、居心地の良い空間が提供されている。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家具・衣類・日用品・写真等思い思いの品を持ち込まれ、家族の関わり方や、個人差はあるがその人なりの居室である。入居者は元気な方が多く、日中の殆んどをリビングで過ごされている。		